

区 分	内 容
議 題	県都まえばし創生本部有識者会議 令和5年度第2回会議
日 時	令和5年12月13日(水) 午後1時30分～3時30分
場 所	前橋市役所11階 北会議室
出 席 者	<p>【委員：11名】  稲田委員、江口委員、大森委員、北村委員、田中委員、中島委員、萩原委員、橋本委員、前田委員、矢嶋委員、山形委員</p> <p>【前橋市】  中島副市長、大野副市長、吉川教育長、細谷未来創造部長、宇次政策推進課長、中島情報政策課副参事、高橋未来政策課長、林政策推進係長、政策推進係員</p>
発 言 内 容	<p>ただいまから、県都まえばし創生本部有識者会議・令和5年度第2回会議を開会いたします。本日はお忙しいところお集りいただきまして誠にありがとうございます。私は、本日の司会を務めます、前橋市未来創造部長の細谷と申します。どうぞよろしく申し上げます。</p> <p>それでは、はじめに、県都まえばし創生本部・副本部長の中島副市長からごあいさつを申し上げます。</p> <p>皆さんこんにちは。副市長の中島です。本日はお忙しい中、有識者会議にご出席いただきまして大変ありがとうございます。</p> <p>また、久しぶりの対面による会議になりますが、インフルエンザが蔓延しているにも関わらず、お集まりいただきまして大変ありがとうございます。本日の会議は、9月の第1回会議の際に、創生プランの改訂をするということでお話をさせていただきました。本市におきましても、デジタルの取組を進めております。人口減少対策の中にもデジタルを取り入れて、今回の改訂に繋がるということでございます。その中で、我々も素案をとりまとめた訳ですが、本日もご出席の委員の皆様にはそれぞれの専門的な立場から、実りのある計画となるよう忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。</p>
細谷未来創造部長	<p>ありがとうございます。</p> <p>また、本日は同じく副本部長である大野副市長、吉川教育長にもご出席いただいておりますので、ひとことごあいさつをお願いいたします。</p>
中島副市長	<p>こんにちは。副市長の大野です。中島副市長からお話がありましたが、県都まえばし創生プランの改訂についてご議論いただきます。その時のキーワードは、国のデジタル田園都市国家構想総合戦略の改訂の流れの中で、前橋市も改訂を迎えているということです。</p> <p>私はデジタル担当の副市長であります。デジタルはあくまでもツールなので、地域が良くなる、どうなっていくかを考える中で、ツールとしてどのようにデジタルを使って行くかを考えることが大切であると考えています。デジタ</p>
大野副市長	

	<p>ルありきという建付けに元々なっているものではありません。そういう視点で考えると、皆さんの視点で地域が良くなっていくことを主眼に、デジタルの活用について忌憚のないご意見をいただければと思います。</p>
細谷未来創造 部長	<p>ありがとうございました。それでは吉川教育長よろしく願いいたします。</p>
吉川教育長	<p>皆様こんにちは。前橋市教育委員会教育長の吉川でございます。コロナが5類に引き下げられまして、学校の中でも活動が広がりました。コロナが過ぎて社会の変化が加速しているなど日々実感しております。教育を取り巻く状況というのも今後大きく変わってくると思います。有識者の皆様には学校教育・社会教育など、様々な面からアドバイスを頂ければと思っております。どうぞよろしく願いいたします。</p>
細谷未来創造 部長	<p>ありがとうございました。続きまして、委員の皆様についてご紹介させていただきます。本日出席の委員の皆様につきましては、お手元の出席者名簿に記載があります11名となっております。</p> <p>また、本日はコロナ後初めての対面での会議開催となります。今回初めて実際にお会いする方もいらっしゃると思いますので、委員の皆様には、簡単な自己紹介と一言ご挨拶をお願いいたします。</p> <p>まずは、大森委員さんからご挨拶いただき、その後は、稲田委員さんから名簿順をお願いいたします。</p> <p style="text-align: center;"><b>【各委員あいさつ（参加委員11名）】</b></p>
細谷未来創造 部長	<p>委員の皆様ありがとうございました。続きまして、市側の出席者について紹介させていただきます。</p>
宇次課長	<p>政策推進課長の宇次と申します。政策推進課では、総合計画と県都まえばし創生プランを担当しております。よろしく願いいたします。</p>
細谷未来創造 部長	<p>その他事務局の自己紹介については省略させていただきますが、冒頭ごあいさつを申し上げました中島副市長以下、名簿に記載のとおり計13名となっておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>なお本日、文部科学省高等教育政策室の方々が傍聴にいらしております。</p>
大森委員	<p>中教審の分科会を担当している皆さまで、本日は本学（共愛学園）との意見交換と、市・商工会議所・前橋5大学で進めている「めぶく。プラットフォーム前橋」に関するヒアリング等をされる予定です。</p>
細谷未来創造 部長	<p>文部科学省の方々は、途中退席を予定しておりますので、ご了承ください。それでは、議事に入る前に資料の確認をさせていただきます。</p> <p>本日の配布資料は5種類です。</p>

	<p>① 県都まえばし創生本部有識者会議 令和5年度第2回会議出席者名簿</p> <p>② 県都まえばし創生本部有識者会議委員名簿</p> <p>③ (資料1) 県都まえばし創生プランの改訂について</p> <p>④ (資料2) 改定案新旧対照表</p> <p>⑤ (資料3) 第3期県都まえばし創生プラン K P I 一覧</p> <p>それでは、次第の「3議事」に移ります。</p> <p>ここからの進行は、設置要綱第5条第2項により、共愛学園前橋国際大学の 大森委員さんに座長をお願いしたいと思います。</p> <p>大森委員さん、お願いいたします。</p>
大森委員	<p>それでは改めまして座長の大森でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>今日の会議は、概ね1時間30分を目安ということです。全員の皆様からしっかりとご意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。傍聴に関しては先ほどご紹介があったとおりでございます。</p>
事務局	<p>【(資料1)「県都まえばし創生プランの改訂について」に基づき説明】</p>
大森委員	<p>説明ありがとうございました。国の政策がまち・ひと・しごと創生本部というところで実施していたものが、デジタル田園都市国家構想に計画の名称も変わっていく中で、前橋市としてはこれまでどおり、「県都まえばし創生プラン」ということで引き続きやっということ。「デジタル田園都市国家構想」のプランにしてしまうと、ちょっと見えなくなるものがたくさんあるなと思いました。</p> <p>国や内閣官房でも、例えば教育の事についてもデジ田事務局から話があるようになっていて、名称が全て総変わりになってしまっています。ただ、このプランの基本はまち・ひと・しごとに関する地方創生のプランであって、そのためにデジタルをどのように活用するかということだと思います。したがって、今までのプランの名称を変えずに括弧内でデジ田を表記することで良いのではないかと感じました。</p> <p>今事務局の説明を聞きながら、今の説明に対しての質問や意見、それから協議のポイントとしていくつか示して頂きましたが、それに関わらずお手元の資料2で確認いただき、各委員の専門分野でも専門分野でなくても、この創生プランに関するご意見をたくさんいただければと思います。基本的な質問でも構いません。とりあえず、思いついたことから話していただいても構いません。どなたからでも結構ですので、ご意見いただければと思います。いかがでしょ</p>

大森委員	うか。
山形委員	<p>コード・フォー・ジャパン 山形委員お願いいたします。</p> <p>改正案（資料2）の4ページ、総合戦略改訂の説明資料（資料1）では23ページです。この地域ビジョンの特に3段落目が気になるところです。私はデジタルの仕事をさせていただいているので、私が言うこと自体が変なことなのかもしれないのですが、やっぱり地域ビジョンというのは「まちづくりそのもの」なのかなと思っています。人の息吹を感じられるものでなければならないのかなと思っています。その中でこの3段落目になってくると、唐突にID・データ連携基盤・マイナンバーカードという言葉が出てきて、何のことなのかなという感じがしてしまうのかなと、少々テクニカルになりすぎてしまうのかなと思います。かつテクノロジーありきにしてしまうと、そのテクノロジーが変わってしまった場合にどう追っていくのか、ICT・デジタル技術の世界ってというのは、ものすごい速度が速いものですから、どんと謳ってしまうのは、ちょっといかがなものかと感じています。</p> <p>ただ、これから社会上でテクノロジーは絶対大事な要素なので、ここは重要な観点と思っているのですが、あくまで市役所の内部的なテクノロジー・テクニックの部分なのかなと思いますので、ビジョンとしてはもう少し人ありき・地域ありきみたいな雰囲気という言葉遣いに変えていってあげた方が、計画を見る方としてもスツとくるのかなと思いました。テクノロジーは大事なので、使うことは前提としながらも、ニュアンスを変えるということですね。そのように修正したほうが良いのではと感じました。</p>
大森委員	<p>ありがとうございます。大変貴重なご意見です。庁内だけじゃなくて、議会であるとか、もちろん市民の皆さんにご理解を頂いて進めていかなければならない計画ですので、確かにめぶくID、ダイナミックオプトインはかなりテクニカルですね。私が事務局に「ダイナミック」を入れた方が良いと言ってしまった経過があります。申し訳ありません。</p> <p>では、このwell-being やQOLの向上っていうのはすごく大事なことから、2段落目と合算できるかなという感じもします。まちづくりとしてはデジタルグリーンシティだし、個人の暮らしとしては、well-being でQOLということになっていくと思います。その中で当然どこかには、めぶくID、ダイナミックオプトインの話は当然出てくるシステムをとということです。事務局で参考にしていただければと思います。</p>
大森委員	前橋まちなかエージェンシー 橋本委員お願いいたします。
橋本委員	<p>新旧対照表（資料2）の最後のページです。</p> <p>推進体制の赤字のところ、「また、社会情勢の変化を踏まえつつ、ウェルビーイング指標を用いた評価手法や…」とあるのですが、ウェルビーイング指標についてどこかで触れているのでしょうか。</p>

事務局	<p>ウェルビーイング指標についてはこの中では触れていません。今後、第八次総合計画や、第七次総合計画の第3期推進計画の改定の中でウェルビーイングの指標を用いた評価などを検討していく予定です。しかし、今回の改訂の中では確かに触れていない部分がありますので、補足で注釈などを付けさせていただきますと思います。</p>
大森委員	<p>ありがとうございます。ウェルビーイング指標も我々が馴染んでいる、南雲さんなどが実施している指標だけでなく、実は様々なところで色々な指標ができていますので、前橋市はどの指標をベースに考えて行くのかは、やはり注釈では必要になってくると思います。ありがとうございます。</p>
大森委員	<p>前橋市男女共同参画審議会 前田委員お願いします</p>
前田委員	<p>資料2の部分で、言葉について気になった点がありましたので申し上げたいと思います。4ページになります。</p> <p>このページの「2. 基本的な考え方」の『また、年齢や性別、…』というところからなのですが、これは年齢、性別、性的マイノリティ、国籍、障害の有無というのが全部「にとらわれず」にかかるかと思いますが、性的マイノリティにとらわれずというのがつながりとして上手くないと思います。性の多様性の話を言っているのであろうと思いますが、この表現はちょっとどうなのかと思います。</p> <p>今の部分に続いて、「とらわれず」の次に、「多様な人がお互いのよさを認め合って」とあるのですが、「よさ」という言葉を入れておく必要性はないのではと思います。「よさ」とは言わずに、お互いにそのままを認め合うというのが、多様な社会のあり方、共生社会になるわけですので、よさがなきゃダメとなのかと理解される表現はどうかと思います。共生社会と謳う時には結構大事な部分だと思います。</p> <p>次に、資料2の6ページの下の部分に、「妊娠・出産を希望する男女へ…」とあるのですが、「男女」という言葉を「希望する人へ」と変えたら良いのではと思いました。最近、様々な性のあり方が認識されてきたということと、子どもを持つことの可能性を考えてそのように思いました。</p> <p>次に、資料2の7ページ上方に『…場所づくりを進め、男性の家事・育児参画や…』とあります。男性の家事・育児に「参画」という言葉を付ける必要性があるのだらうかと思いますが。男性の育児参加という言葉が、よく行政の用語で出てきます。これに関しては、母親たちが集まって話をしている中で、「女性の育児参加って言わないよね」という声が聞かれます。男性の育児について、もっと積極的にやってほしいということはわかるのですが、母親からは「なぜ男の人が育児をすると参画・参加となるのか。私たちのことは参加って言わないのにね。」という声が出てきます。そういうこともくみ取って、もし不都合がなければ修正いただきたいと思います。</p> <p>先程の山形委員の意見に賛同ということなのですが、基本目標の部分で誰一人取り残されないというのがありました。そこはすごく大事なところだと思います。デジタル化を進めるにあたって、取りこぼされるかなと不安がある方</p>

	<p>がいらっしやると思います。そういう時に、先ほどの Well-being 幸福度の関係をはじき出すのに、「ダイナミックオプトインに基づいて提供された個人データから一人ひとりの Well-being をはじき出す」という繋がりが、取りこぼされてしまう感覚とつながりかねないと思いました。幸福度は人間の内面に關わる大事なところですので、そこを大事にしていく街です、というメッセージは大事です。このような行政文書で、「自分の幸福度をどうやってはかるのだろう。よくわからないのだけれども。」と思う市民の人たちがいるということをお考えいただき、ニュアンスを変えていただいてもいいのかなと思いました。</p>
大森委員	<p>ありがとうございます。いずれもとても大事なポイントだと思います。前田委員とはお付き合い長いのですが、本当にこの感覚が優れている人で、いつも本当に素晴らしいなと思っています。事務局で検討をお願いしたいと思いません。</p> <p>ただ一点、最初指摘いただいた文書の表現として事務局を助けるとしたら、年齢、性別、性的マイノリティを含んだこの文章が合わないですね。最初の4ページのところの代わりに、新たな文章を入れるとしたらどう入ると良いでしょうか。性の多様性、年齢や性別、性的指向だけではもちろんないわけだし、自認でもある、でも言いたいことは言いたい。それぞれの性の在り方があっていいよと言いたい。どのような文章にしたらいでしょうか。</p>
前田委員	<p>「とらわれず」という言葉に無理に付けなくても良ければ、例えば「多様な性を尊重して」などの言い方に変えてはいかがでしょうか。性的マイノリティについてはとらわれずと結びつけずに、「まだまだ性のあり方を尊重しつつ」とか、別にすれば良いと思いました。</p>
大森委員	<p>なるほど。「年齢や性別、国籍や障害の有無などにとらわれず、さまざまな性のあり方を尊重し、多様な人びとが互いに認め合って…」という感じでしょうか。</p>
橋本委員	<p>すべての人ってことなのかと思います。</p>
大森委員	<p>結局はそういうことですね。極端にいうとここに記載する必要がないだろうという事にもなってきますね。あらゆる人がお互いを認め合ってという事になりますね。</p> <p>ただし、ここに書くということは逆に言うと、実はそこに課題があるということを示しているということも表していて、年齢差別や性差別、国籍差別や障害差別があるということを示しているよ。そういうことも含めて、でも皆が認め合っていないとならない、というメッセージなので、一応記載する方が良いでしょうね。</p>
事務局	<p>表現はこちらで考えさせていただいて、反映できるようにしていきたいと思えます。ありがとうございます。</p>

大森委員	<p>いずれも反映できる内容だったのではないかなというふうに思います。よろしくをお願いします。</p> <p>前橋市都市計画審議会 中島委員をお願いします。</p>
中島委員	<p>資料2の13ページに、「地域交通のDX化によるデータに基づくネットワークの再構築や様々な分野が連携することにより、地域交通に新たな価値を付加するほか…」と続いているのですが、地域交通に新たな価値を付加する何を言いたいのかよく分からないのと、その前段の「様々な分野が連携することで…」とあるのですが、何を言いたのかというのが、いまいちはっきりしないのですが、どのような考え方をしているのか教えていただきたいです。</p>
事務局	<p>ご質問ありがとうございます。</p> <p>地域交通に新たな価値を付加というのは、今本市が取り組んでおりますMaaSですとか、今年度の交付金事業で商店街との連携なども行っております。そのように、公共交通だけじゃなくて、そこから派生したサービスと一緒に展開できるようなものをイメージしてこちらに記載させていただいております。</p>
中島委員	<p>交通と商店街の連携については良いと思いますが、この地域交通というところがちょっと引っかけられます。設定されているKPIには、公共交通・JR・上毛電鉄・委託路線バスの利用者数とありますが、地域交通よりも移動手段をいかに確保しているか、いつでもどこでも行けるという環境を目指して行くのが持続可能なまちづくりではないのでしょうか。どこにでも行ければ、記載されている医療や介護へのアクセスも高まると思います。地域交通のところに少しこだわりすぎなのではないかと思いました。前橋市は自転車のまちを推進していますし、また新たなライドシェアとか色々出てきていますし、タクシーの運転手さんにデイサービスの送迎をやっていただくとか、このような移動手段の確保というのをもう少し考えた方が良いのではないかという気がしました。</p>
大森委員	<p>地域交通という表現をすると、既存の交通機関というイメージが強くなる感じになるのでしょうかね。</p>
中島委員	<p>そうですね。特に指標のところはJR・上毛電鉄・委託路線バスとなっていますので、どうしてもそちらが強くなるのですけれども、前橋市ではそれ以外にもMaeMaaSなど幅広いことをやっているのですよね。そういう意味でやっぱり移動手段とか、もう少し大きな括りが良いのではと思いました。それが持続可能なまちづくりに繋がるのではないかと思います。</p>
事務局	<p>前橋市でご存知だと思いますが、コクベ・マイタク・デマンドバスなど、色々なチャンネル持っていますので、そういう所が少し見えるような形で表現したいと思います。ありがとうございます。</p>
大森委員	<p>私も2点ほどよろしいでしょうか。</p> <p>1つは、先程の前田委員のお話を聞いて、ここで何かできるという話ではな</p>

	<p>いのですが、「誰一人取り残されない」という表現自体がどうなのかという議論がそろそろある感じがします。県の教育振興基本計画も作っているのですが、その表現を排除するかどうかということで、no one will be left behindを日本語にすると、取り残さないとなり、すごい上から目線になります。一緒に歩いていくという事を言いたいのですが、取り残すというように、すごい落ちこぼれ感満載の表現で、取り残さないでやるぞって言っている感が出てきたなあと思っています。でもみんなSDGs以来、使っているから定着しつつあるのですが、実際、取り残されている感を持っている人からすると、相当重い言葉という感じがあると思います。ただ今日ここで変えましょうというところまで、まだソリューションを持っていないですが、そのような感覚が出てきているということが1つです。</p> <p>もう1点は、具体的な話です。私の専門分野である若者定着に関して、指標では市内企業への就職率となっており、前橋市の計画なのでこちらが良いのですが、参考指標的に県内就職についても追った方がいいのではないかと気がしています。前橋市だけで見ると非常に少ない数値になっているのですが、例えば群馬大学であれば50%ぐらいが県内に就職していますし、共愛学園前橋国際大学だと80%ぐらいが県内には就職しています。そうすると、確かに前橋市にある企業と考えると、商工会議所としては絶対前橋市の企業に就職して欲しいというのは分かるのですが、例えば伊勢崎市の企業に勤めているけど、前橋市に住むということもありますし、県に居てくれれば良いというものではないかと思っています。なので、指標としてはどこかにあっても良いのではという感じです。目標値として、13%を14%にするというのは市内としてはそうなのですが、学生の動き見ると、市境でなかなか切り分けられない部分があるなと感じていました。</p>
大森委員	<p>地元進学について、群馬県内にある大学を考えた時には、ほぼ前橋市か高崎市になるので、他の市町村には本当に申し訳ないのですが、伊勢崎市と太田市が少しあるくらい、そういう意味では参考指標としては押さえておかなければいけないかもしれないです。ちなみに、群馬県内には大学、短大含めて20ぐらいあり、県内に大学が2つしか無いというところがある中で凄く恵まれています。地方圏で見ると、群馬県の学生収容定員数は6000人で突出しています。だからかなりポテンシャル持っているところはあります。</p> <p>前橋まちなかエージェンシー 橋本委員お願いします。</p>
橋本委員	<p>資料2の若者定着の部分ですが、若者とは何歳から何歳までのことを指すのでしょうか。</p>
大森委員	<p>指標的には20歳から24歳までの転出超過の抑制を図っているので、そこを目指しているのだと思いますけど、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>確かに定義は書いてありませんので、定義を書く必要があるかについては、検討させていただきます。どうしても大学進学の際は住民票移さない方も多く</p>



	<p>いらっしゃるので、なかなか住民基本台帳の帳簿上の数字だと追いかけても上手く数字が出ないことがあります。そうすると20歳から24歳までに訪れる就職のタイミングで住民票を移される方が多いので、一番未来を物語っているのかなと思い選択肢しているということもあります。</p>
橋本委員	<p>そうですね。その部分も気になっているのですが、この課題を取り巻く現状の中で記載されているスローシティエリアへの移住というのは、20歳から24歳の人スローシティエリアへ移住することを目指しているのでしょうか。</p>
大森委員	<p>スローシティエリアへの移住のところ、若年層の転出超過数をカバーするまでには至ってないと記載しているのは、この20代を意識しているのでしょうか。実際は、スローシティエリアにはリタイアした年代の人たちも来るという、そういうことを橋本委員さんにご質問されているということでしょうか。</p>
事務局	<p>質問ありがとうございます。若い人たちが出て行くという感覚は、すごく分かります。もちろん、市内・県内に残っていただきたいという気持ちはありますが、無理やり残すというよりは、帰って来ていただける方をなるべく増やしたいということで、30代・40代の年齢層に帰って来ていただけるようなまちづくりが必要であると思っています。この施策で言うところの⑧移住・定住人口の増加で、若い方たちが出ていく以上にカバーできるほど30代・40代の移住が増えてくると良いなと考えています。</p>
大森委員	<p>今説明を聞いてわかりました。ということは、少しニュアンスが伝わっていないと思います。20代がスローシティエリアに移住してくるというようにこの文脈だと読み取れました。もう少し文章を丁寧に書いたほうが良いと思います。</p>
橋本委員	<p>もう一点だけすみません。資料2の10ページ⑦番です。元の文章は、「関係人口の増加」ということだけだったのですが、「観光誘客の促進による…」と書かれています。これは⑦番の施策ですが、⑥番では「魅力あふれる仕事づくり」があります。関係人口は仕事で前橋市を往来する人のことだと思っているのですが、前橋市という関係人口というのは観光客的なものの指標でしか計っていないのでしょうか。</p>
事務局	<p>10ページの⑦番に関しては、道の駅が新たに今年の春にオープンしましたので、そういったところを踏まえて、関係人口という言葉を使わせていただいています。もちろん仕事関係で関係人口になるということは十分にあり得ると思いますが、特にその道の駅をうまく活用して誘客につなげたいと言うことを少し注目して書かせていただいております。</p>
大森委員	<p>橋本委員の意見から言うと、ここは元の通り「関係人口の増加」だけにしておいて、ワーケーションとかの促進も出てくるでしょうし、観光誘客というのは本文の中ではかっちり誘致・MICEと併せて書いていくという手もあるので</p>

	<p>はないかっていうこと。もっと幅広くとっても良いのではないかということでしょうか。</p>
橋本委員	<p>デジタル化を進めていくと、デジタルに紐づいた仕事は増えていきます。既に参画している企業には、移住まではしないが、週に数日程度の通勤の方もいると思います。それを関係人口の所に落としていっていると思うので、それだけに頭のところで観光と謳わないほうが良いのかなという気がします。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。ちょっと検討させていただきたいと思います。</p>
大森委員	<p>江口委員さんお願いします。</p>
江口委員	<p>このプランを見たときに、すぐに私も取り残されるなと思いました。 外国人の就職なのですが、外国人の人はすごくシビアに考えており、とりあえず一回就職してみたけど、川を渡った埼玉県は最低賃金が1000円超えているから、そっちに行きたいと、やはりどんどん最低賃金の良いところに転職している感じはします。とりあえず就職できたが、1年目の更新の時に埼玉に行く人が多いです。最低賃金が同じになるのは難しいかもしれませんが、やはり川を渡ったら最低賃金が1000円超えると太刀打ちできないです。外国人の人は、情に絡むとかはないので、すごくシビアに賃金のことを考えています。そこを繋ぎ止めるというのは、よほどの力がないと難しいと思います。もう少しデータやITで具体的に示して欲しいなと思います。</p>
大森委員	<p>はい、ありがとうございます。今の賃金などその辺りの話は、若者定着も当然そこはあると思います。ということは産業活性化ということが非常に重要なポイントになってくるということになります。少し長い目で見なきゃいけない感じはあります。ありがとうございます。</p>
大森委員	<p>前橋の地域若者会議 萩原委員お願いします。</p>
萩原委員	<p>改訂版の14ページの⑫共助のまちづくりのところ、指標を見ますと、地域の中での自治会の加入率ですとか、そういうところが低下を抑えるという内容になっているかと思うのですが、書き出しのところ、「デジタル社会の恩恵を享受しながら…」という書き出しにはなっているのですが、実際、この中身「行政と企業・団体の助け合いや、市民同士の助け合いの精神を育むことでパートナシップを磨き…」の部分と「デジタル社会の恩恵を享受しながら、…」の部分で、繋がりと言いますか、この書き出しである必要性があるのか、そういうつながりを想定されているのでしょうか。もしわかれば教えていただければと思います。</p>
事務局	<p>⑫番の部分は、今回は新たに追加をした部分でして、先ほどから議論になっています4ページの地域ビジョンのところの部分で1番色濃く反映させた項目</p>

	<p>だと思っております。地域ビジョンの中にもありました、めぶく ID とかデータ連携基盤といったものをイメージして、このデジタル社会の恩恵という言葉から結びつくような形をとらせていただいております。まだ、なかなか具体的にサービスとして皆様に地域の方に実感してもらえるような段階には至っていないところも多々ありますが、将来的にはそのようなものを使って、共助型の未来都市というものを創っていければ良いなという意味表明みたいなものを含んだ表現になっております。</p>
大森委員	<p>多分、デジタル田園都市国家構想の計画を出す時に目指すのが、「共助型未来都市」でデジタルの動きを受けながら、みんながこういうふうを目指すまちという風を書いて出したものがベースになっているというところ。「全ての市民が…」という所から始めて、ただ最後に「その際にデジタル社会の恩恵をすべての市民が享受できるように」という風に後に付けてもいいのかもしれないなと思いました。先程からお話が出ているように、デジ田をバリバリ考えてやっているよっていう人からすると当たり前ですが、市民一人ひとりにとってはそうではないということが多分あるとすると、でもデジタルも大事ですねという風な順番付けでもいいかもしれないなと思いました。</p>
大森委員	<p>前橋商工会議所 稲田委員お願いします。</p>
稲田委員	<p>基本的なことがよく分からないので、教えていただきたいです。今回、国がデジタル田園都市国家構想総合戦略を策定し、県がプランを改定しました。前橋版については、国・県のデジタル田園都市国家構想をどのような感じで踏まえて直すとか、そういう制約はあるのでしょうか。</p> <p>県都まえばし創生プランの本来の目的というのは、基本目標の結婚・出産・子育ての希望をかなえる、それから若者定着と多様な人材の活躍により、地域の活力を維持するという、そういった基本的な目標があると思います。今回、国の改訂を踏まえて前橋も改訂する中で、デジタルを活用して取り組む必要のある基本目標があるのか教えていただきたいです。</p>
事務局	<p>基本的には国・県の内容を踏襲した上で記載することになっておりますが、かといって独自色を出してはいけないというわけでもありませんので、結構振り幅が広いと我々認識しております。今回の改訂については、冒頭でもお話しした通り、第七次の総合計画の中での改訂ですので、今回の創生プラン自体も総合計画の中に内包されているようなイメージになっています。そこを大きく逸脱することがないような形で、マイナーチェンジと言う形をイメージしております。なので、第2期のプランに少しデジタルの味付けをしたというような考え方で、整理をしているという状況になっています。</p>
大森委員	<p>必ず盛り込まなければいけない項目はあるのでしょうか。</p>
事務局	<p>地域ビジョンといわれている部分は、必ず盛り込みなさいということは、手引きの中では書かれています。</p>

大森委員	ビジョンの内容は、それぞれの市の中でというわけですね。意外とオリジナル色を出しているということですね。
稲田委員	デジタルの部分を前面に出さないとダメだとか、そのような話ではないのでしょうか。
事務局	もちろんできる範囲でということだと思いますが、国の方もデジタルを使って、取り組みをスピードアップさせなさいという言い方をしています。我々もデジ田のお金をたくさん使って事業実施させてもらっていますので、そこを少し色づけして、今までの計画がより進むような形を、この中で整理させてもらっています。
稲田委員	デジタルを推進することによって、時間的に余裕が生まれて、それが結果的に便利に繋がるというような、そのような筋書きで構成されるということ考えて良いのでしょうか。
事務局	結構です。ありがとうございます。
大森委員	群馬大学 北村委員お願いいたします。
北村委員	<p>2つあります。1つは、計画の中に出てくるめぶく ID について、やはり説明を加える必要があるだろうということです。それから、どれぐらい普及させて実施していくつもりだとか、どういうことができるのかってというようなことも、本当は書き込んでおく必要があると思います。</p> <p>普及に関しては、高校では携帯持ち込みが制限される場所があるかもしれませんが、大学レベルであれば、携帯などで便利に使えるということを知らせれば、学生たちが使うような人たちが出てくることが考えられます。そういう意味ではそのめぶく ID っていう、もう1つの ID を作り出すその意義とか意味をきちんと行政の方からも伝えるということが必要であろうと思います。便利に使えるとか、安心だとか、そのようなことがしっかりと伝わるようにすべきだろうと思います。</p> <p>それから二つ目は、情報化の度合いということで、年齢が上の方に入る世代になってくると、インターネットにそれほど親しんでいない、携帯にも親しんでいないという人は当然いるわけです。下の世代になってくると、本当に情報にどっぷり浸かって来ているので世代が進むと、ある意味情報化が進むじゃないかと言う気がします。そうすると無理に格差を無くすことについて議論をするよりは、世代に応じて使っている人たちが使いやすいように、アナログのものもちゃんと残しながら、安心ですよと言いながら、段々変えていくというような戦略で良いのではないかという気がしているのです。変えろ、変えろとすぐく圧力をかけると、やっぱり皆さん困る方もちょっと出てくるかなという気がします。ですが、若い世代見ていると非常に上手く使いこなしているのです。だんだんと変わっていくという見方で良いのではないかと思っております。</p>

大森委員	<p>ありがとうございます。大変貴重なお話だと思います。めぶく ID に関しては、やっぱりここにいきなり出てくるので、説明するとなると、結構なページ数をとるという可能性があります、少なくともみんなが使っているライン ID とかで Google ID なんかもよりずっと安全な ID ができたということなので、そこがわかしてもらわないと、普段 LINE を使っている人は危険にさらされているはずなのに、めぶく ID はすごく危ないと勘違いをされてしまうと意味合いが逆になってしまいます。そのあたりを明確に伝わるようにしないといけないと思います。</p> <p>また、デジタルデバインドに関しては北村先生のおっしゃる通りかなと思います。今技術的にもまだ過渡期で、まだデバイスを使わないとアクセスできないみたいなことがあります。普段我々が電話をかけていて、すごくデジタル使っていると誰も思っていないのに、実際はデジタルを使っているわけです。というぐらいにデバイスが追いつけば、気にならずに恩恵を受けられるのですが、まだそこまで技術が追いついてないというところで、少しデジタルデバインドの問題が残ります。</p>
大森委員	群馬県看護協会 矢島委員お願いします。
矢嶋委員	<p>めぶく ID は、確かに私も先ほど思いましたが、割と分かっていない人がたくさんいるのかなと思いましたので、説明が必要かなと思います。</p> <p>挨拶でも申し上げましたが、少子化への対応は、この基本方針の第一項目に上がってきておりました。今回、この改定案には説明が付いたので、非常に分かりやすくなったかなという印象はあります。少子化の点では、安心して出産できるというところの、妊娠前から妊娠後の様々な精神的なケアだとか、そのようなところの施策がもう少し入ると良いのかなと思いました。また、そのあたりの何かサービスの所考えとかがあれば、盛り込んでいただいてもよろしいかなと思いました。結婚・出産から急に保育園の施策となっているので、妊娠中・出産後のケアというところがもう少し盛り込まれると良いかなと思います。</p> <p>前橋市は非常に恵まれていると思っています。群馬県看護協会では、12地区支部で館林市の方から北は中之条地区まであります。中之条地区になると出産できる場所はありません。中之条の方はどこに下りてくるかと言いますと、ほとんど前橋市の方に来ます。私も前橋赤十字病院から原町赤十字病院の方に出向していましたので、ものすごい格差があります。そういう意味では安心して育てられる環境というのは、前橋市は本当に整っています。群馬県で一番じゃないかなと思います。ですので、そういったところを下げることなく出産ができる環境をとにかく維持して欲しいです。今の環境を維持して欲しいというのが、まず第1の希望です。</p>
大森委員	<p>妊娠・出産への支援という、No.10 が重点事業として出てくるわけで、そのことはもっと文章の中でも明確に記載して欲しいということですね。市民にとっても、人口流入にとっても重要なことだと思います。ありがとうございました。</p>

大森委員	前橋市私立保育園長連絡協議会 田中委員お願いいたします。
田中委員	<p>仕事と子育ての両立は保育園だけでは成立しないです。働いている会社・社会が同じように考えていただかないと、お勤めしながら子育てをするというのは大変なことなので、その理解が大事なところだと思います。女性が活躍しやすい環境づくりのために、私の園では子育てについてもお父さんがお迎えをしたり、行事に参加したり、親子のふれあいができるように努めています。</p> <p>人口を増やすには、出会いの場といった環境づくりが必要です。大変だと世の中が言いすぎると、若い人たちは鷓呑みにしてしまうこともあるので、楽しく子育てができるようにしていきたいと思います。子どもを受け入れる受け皿をきちっと整備すれば、おのずと働いている方も安心して預けられると思います。</p> <p>先ほど移住の話が出ましたが、私も学生時代には地方に出ており、前橋が好きで戻ってきた経過があります。前橋で仕事をしていると、旧友が遊びに来たり戻ってきたりするので、前橋が魅力がある街になるとデジタルの力を活用すると、戻ってくる確率が高くなるのかなと思います。地元意識を若いうちから楽しく過ごせれば、また戻ってくるということもあると思います。</p>
大森委員	<p>自治体によっては子育て支援の中で、地元の企業への働きかけ（管理職への働きかけなど）をやっている自治体もある。今回マイナーチェンジではありますが、関係するようなことがあれば盛り込むし、次は会議所と協力しながら入れていければいいなとも思います。</p> <p>ご質問がなければ、進行を事務局にお返しします。</p>
細谷未来創造 部長	大森委員さん、スムーズな進行ありがとうございました。また、貴重なアドバイスもいただくことができました。次に事務局から連絡事項ありますでしょうか。
事務局	<p>事務局より1点、ご連絡があります。</p> <p>本日の会議録につきましては、作成でき次第、委員の皆様方に送付させていただきます。内容の確認後、ホームページで公表となりますので、ご承知おき下さいますようお願いいたします。</p> <p>事務局からは以上でございます。</p>
細谷未来創造 部長	<p>本日は誠にありがとうございました。各委員さんから大変貴重なご意見・ご提案をいただくことができ、事務局として大変助かりました。いただきましたご意見を踏まえまして、これから改訂作業を進めてまいります。その都度各委員さんのお立場のご意見をいただくことがあるかもしれませんが、その際はよろしくようお願いいたします。</p> <p>以上をもちまして、県都まえばし創生本部有識者会議・令和5年度第2回会議を終了します。長時間にわたりご協議いただき、誠にありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>